
混沌の魔術師と天空の巫女

白鋼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

混沌の魔術師と天空の巫女

【コード】

N8396Z

【作者名】

白鋼

【あらすじ】

主人公はある2匹のドラゴンに育てられていた。だがある日、彼は昨日何があったかを思い出されず、育ててくれた竜がいなくなり、どうすればいいのかわからなくなっていた所にある1人の少年と出会い、旅をした。その旅の途中で自分同様、育ててくれた竜がいなくなってしまう少女と出会う。この2人との出会いが彼の運命を大きく動かすかもしれない。

*途中で話を飛ばしたり省略させる部分もあるので気を付けてください。

プロローグ

「どうして・・・こうなったんだ・・・。」

俺は一人でそこに立っていた。

なぜたっているか・・・？俺を育ててくれた親が・・・いない・・・。

俺は昨日と今日の朝・・・何かあったような気がした。

でも・・・思い出せない・・・それに・・・何か体の感覚が少し違和感があった。

でも・・・何もわからない・・・何も思い出せない・・・。

「俺は・・・どうすればいいんだ・・・。」

俺はこれからの事をどうするのか、わからない・・・。

「父さん・・・母さん・・・。」

「どづかしたの?」

「!?!」

後ろから声を掛けられて、俺は驚く。

「ゴ、ゴメン。驚かしちゃって……。」

「いや……別にいいが……。」

「いったいどうしたのこんな所で?」

「……。」

「言いたくなかったらいいけど……。」

「すまん……。」

「君、これからどうするの?」

「さあな。どこに行っても、俺に居場所はなくなった……。」

「……。」

彼は何かを考えていた。

「なあ……俺と一緒に来ないかい?」

「え?」

「1人じゃあこれから大変だろ？ギルドとかに入ってみたら？」

「ギルド……。」

「俺はジェラルル。君の名前は？」

「俺は……コージ・フォレトロスだ。」

「コージっていうんだ。」

「……ああ。所で……ギルドって何だ……？」

「知らないの……？ギルドっていうのは……」

ジェラルルは俺にギルドについて話をしてくれた。

「……。」

「とらじとちぢ。」

「……ジェラルルも……入るのか……？」

「まあ、そう考えてはいるけど……。」

「……一緒に行く。」

「え？」

「ギルドに興味を持った。一緒に行く。」

「・・・わかった、よろしくね、コージ。」

「よろしく、ジャラル。」

777年7月1日、俺はジェラルと一緒に旅をする事となった。

俺の最初の友達、ジャエラル。

このジェラルとの出会い、そして旅ともう1つの出会いが、俺の運命を大きく変わるとは俺は予想もしなかった・・・。

プロローグ（後書き）

あけましておめでとうございます。そして始めまして、白鋼です。
FAIRY TAILの小説を書いてみました。
どうか、感想などをお願いします。

少女との出会い

ジェラルルとの旅をしたある日……

「ジェラルル。」

「なんだい？」

「1つ聞いていいか？」

「いいよ。」

「お前はアニメを探しているって言ったが、アニメって何だ？」

「……とても危険だ。それを消す事が俺のたびの理由だ。」

「そうか……すごいなラルル……。」

「君だってすごいよ。」

「そうかな？」

「この前だって俺がモンスターに襲われそうだった時は助かったよ。」

「当たり前だろ。お前のお陰で元気が出たぜ！」

「そうかい。」

俺達はそついう話をしながら、旅をしていた。
旅をして、ジェラルムにいろんな事教わったり、
互いに助け合ったりして、ものすごい信頼がこの旅で俺達に与え
てくれた。

昼頃・・・

「今日はここで休もうか。」

「わかった。この森に川があるからな魚でも取ってくる。」

「気をつけてな。」

「ああ。」

俺はそう言い、森の方へ言った。

「さーっとと魚を捕りに行きましようか。」

コウジは川へ潜ろうと服を脱ごうとした、その時であった・・・。

「ひくっ、ひくく・・・。」

「ん？誰がいるのか？」

鳴く声が聞こえて、声の方へ俺は行った。

「・・・女の子？」

「・・・!」

「どうした？何で泣いている？」

「いなくなった……。」

「え？」

「うえええええつ！！！」

女の子は俺の方へ来て、泣き出した。

「（……なんか、俺見たいに、親がいないのかな……。）
よしよし。俺がそのなくなったのを一緒に探してやる。
俺の名はコージ、コージ・フォレトロスだ。君は？」

「私、ウエンディ・マーベル……。」

「何で泣いてたかも聞いてもいい？」

「うん。グランディーネがいなくなったの……。」

「グランディーネ？」

「私を育ててくれた親……うん、ドラゴン。」

「！？まさか君は滅竜魔導士！」
ドラゴンスレイヤー

「う、うん……。あなたも……。」

「ああ、滅竜魔導士だ。」
ドラゴンスレイヤー

「そうなんだ……。」

「ああ……。いつからいなくなっただんだ？」

「今日……ひっぐ。」

「泣くなよ……。」

困ったな……どうすれば……そうだ……！

「なあ、俺について来ないか？」

「……え？」

「俺も前は1人だった……それを俺の友達が助けてくれたんだ。」

「友達……？」

「そう。一緒に来ない？そのグランディーネも見つかるかもしれないし……」

「本当？」

「ああ。きっと手掛かりが見つかるはずさ……」

「……うん……」

「じゃあ俺について来て。」

「あの……。」

「ん？」

「手、つないでいい？」

「ああ、ほら。」

俺は手を差し伸べた。

「ありがとう……。」

「どういたしまして。」

「ただいま。」

「あ、お帰り……ってその子は？」

「この子はウエンディ。近くで泣いてたからつれて来た。ウエンディ、こいつは俺の友達のジエラル。俺はこいつのお陰で旅が楽しくなったんだ。」

「ど、どうも……私、ウエンディ・マーベル。」

「よろしく。」

紹介を終え、食事を始めた。

「今日はデツカイ魚の上、3匹だ。木の実も見つけたし、量的に足りるぜ。」

「そうだね。」

「あ、ありがとう……。」

「気にするなよ。一緒に旅してくれる人が増えていいぜ。」

「うん、うん」

食事を終え、歩き始めるようとした。

「さて、行くところか2人共。」

「おう。」

「うん。」

777年7月7日、ウエンディ・マーベルと出会い、俺達は3人で旅をする事となった。

少女との出会い（後書き）

どうも、白鋼です。

旅からいきなりですが、ウエンディを出させてもらいました。

この後の今後が感じいけるように頑張ります。

次回もお楽しみに〜！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8396z/>

混沌の魔術師と天空の巫女

2012年1月2日00時49分発行